北谷 英嗣

ものごとを伝えるということ

『夜会 vol.3 KAN（邯鄲）TAN』
中島みゆき著／角川書店
『夜会 vol.4 金環蝕』
中島みゆき著／角川書店
『夜会 vol.5 花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に』
中島みゆき著／角川書店
『夜会 vol.6 シャングリラ』
中島みゆき著／角川書店

「夜会」とは、25年程前から半定期的に上演されている、中島みゆきが演じるほとんど一人芝居のコスプレショー。作詞・作曲・演出・主演まで全て中島みゆき本人が手掛けている。これまでに13作品を発表し、18度の長期公演を行った。つまり５公演は再演。

コンセプトは「言葉の実験劇場」。初期は、希薄なストーリー性の下、既存の曲を様々な情景で歌うといった感じで、なんだコスプレしたかっただけか、と思われていた。本人も、真昼間から演じるのはさすがに恥ずかしいらしく、午後８時に開演するのが恒例となった。その後､徐々にストーリー性を重視するようになり、そのため書き下ろし曲が大半を占めるようになってきている。

ここで紹介するのは、そのシナリオ本。推薦書というよりも、言葉を大切にしている中島みゆきの葛藤を読み取ることのできる貴重な資料としての紹介。

中島みゆきの書く歌詞は非常に聞き手に伝わりやすい。比較的単純な構成の曲が多い上に、ご丁寧にも同じフレーズを何度も繰り返してくれることが多いせいもあるけれど。

エッセー本も数冊出している。「オールナイトニッポン」のノリで、少し笑いをとろうと努力していることが伺えるものの、基本的に非常に読みやすい。

だが、「夜会」の中島みゆきはそうではない。一体誰が何をしているのか、どのように話が続いているのか、一度観ただけではわからないことばかり。最期はそれなりに盛り上がるように構成されていて、本人もこれでもかといわんばかりに熱唱するので、観客はそれなりに満足して家路につく。けれども細かいところでかなりひっかかる。熱狂的なファンであればあるほどひっかかる。ひっかかってもなす術はない。交流サイトや巨大掲示版でああでもない、こうでもないと議論するのがせいぜい。そうこうするうちに、１年程経つとDVD（初期はビデオ）を

出してくる。何度も見直せるのは有難いがひっかかるところはやっぱりひっかかる。それでは、と出版したのが、これらのシナリオ本。どうだ、細かいところまでしっかり書いてあるぞ、との意気込みが伺える。が、読んだ方は、そんなことまで観ただけでわかるか、と有難さよりも不満たらたら。さすがに本人もこたえたのか、vol. 7からは4冊ほど、丁寧にも小説として世に送り出した。けれど読み手の感想は変わらない。ならお前ら自分で勝手に解釈しろ、と、最近の3作品はシナリオ本も小説も出さなくなってしまった。しかし、余計に理解し難いストーリー展開の作品が出来上がる事態が続き、翌年あるいは数年後に、仕方なく、わかりやすく改変したつもりで再演されている。

そのような経緯で書かれたこれらのシナリオ本。暇があったらぱらぱらめくってみてください。なるほど、と納得してはいけません。そんなのわかるように演じてはいません。別に読むことを無理には薦めません。これらのシナリオ本は、言葉（＋曲）で伝えることには長けている中島みゆきが、言葉以外の武器も手に入れたとき、人にものごとを伝えることがいかに困難な作業になってしまうかということを実証する資料として貴重なのです。

執筆者紹介

北谷　英嗣

基盤共通教育部教授。専門領域は、物性基礎論、統計力学。

『書名』　著者名　翻訳者名　出版社または文庫・シリーズ名　出版年　税込価格

『夜会vol.3－KAN（邯鄲）TAN』中島みゆき著 角川書店 1992年 品切

『夜会vol.4－金環蝕』中島みゆき著 角川書店 1993年 品切

『夜会vol.5－花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に』中島みゆき著 角川書店 1994年 品切

『夜会vol.6－シャングリラ』中島みゆき著 角川書店 1995年 品切

ブックガイド目次へ